

図書館だより

目次

歴史に翻弄された Corpus Aristotelicum	—新海 邦治	1
「今、学生にすすめる本」特集 (その15)		
—河内 十郎	定行 まり子	2
坂田 仰	上川井良太郎	
田辺 和子	尾中 文哉	3
北西 憲二	塚野 千晶	
e-Learning (学内者向け利用ガイド)	—高野真理子	4
展示 アフガニスタン関係資料		6
アフガニスタン関係 展示資料一覧 (目白・西生田図書館)		7
平成15年度夏期スクーリング開館について	—中澤 啓子	8



歴史に翻弄された Corpus Aristotelicum

新海 邦治

現在に伝わる「アリストテレス著作集」 Corpus Aristotelicum の原形が成立したのは前1世紀半ば、共和制末期のローマにおいてであった。アリストテレスに始まるペリパトス学派第11代の学頭アンドロニコスの編集によるものとされる。しかしここに至るまでのアリストテレスの著作類は数奇な運命を辿っていたことが、ギリシアの地理学者ストラボンによって伝えられている。それによれば、アリストテレスから後継者テオプラストスに委ねられた著作類は、さらにその弟子ネレウスに引き継がれ、ネレウスはこれを小アジアの故郷スケプシス市に持ち帰って子孫に伝えた。当時、小アジア一帯を支配していたのはペルガモン王国であったが、王たちは首都に設けた図書館のために書物の収集に力を注いでおり、これを警戒したネレウスの子孫の一人は著作類を地下に隠したと言う。悪条件のもとでパピルス紙は損傷を免れなかったものの、後にアテナイの書物愛好家アペリコンが高額で買い取って、この原本から写本を作り世に出した。恐らく前1世紀初頭のことである。ストラボンはこの写本を損傷の補正に不適切な点が多かったとしているが、ペリパトス学派もこの写本によって殆ど2世紀ぶりに学祖の著作に接する機会を得ることができたのである。だがアペリコンの死後、その蔵書はアテナイを占領した將軍スッラによってローマに運び去られたとのことであるから、原本の方もこの時ローマに移されたものと思われる。ともあれアンドロニコスによる編集の基礎を成したのは、このようにして伝わった原本と写本だったことになる。

だがストラボンの伝えるこの話で先ず疑問に思われるのは、ペリパトス学派にとって貴重な財産であった筈の学祖の著作類をどうしてネレウスは私したのか、或いは私することを当時の学頭は許したのか、ということであろう。英国ニューカッスル大学名誉教授 R.G.Tanner の最近の論文は、この問題を当時のマケドニアとエジプトの間の緊張関係から説明している。マケドニア側に属するアテナイはエジプトの侵攻対象となる危険があり、ペリパトス学派が蔵書類をアレクサンドリア図書館に奪われることを恐れてスケプシスへ避難させたことは充分考えられる、と言うのである。とすればアリストテレスの著作類はアレクサンドリア図書館に対する用心からアテナイを離れ、またペルガモン図書館の目を逃れるために地下に隠れ、前1世紀に至って漸く日の目を見たということであろう。だがそのように秘し隠す必要があったのは恐らくそれが原本だったからであって、アンドロニコスによって体系的に編集された著作類の写本はアレクサンドリア図書館にも送られ、やがてこの地を中心として展開することになるアリストテレス研究の基盤を成すのである。

(図書館長・文化学科教授)

「今、学生にすすめる本」特集（その15）

■河内 十郎（児童学科教授）

酒井邦嘉著 『言語の脳科学：脳はどのようにことばを生みだすか』 中公新書 2002年

著者は、学部では物理学を、修士課程では生物物理を、博士課程ではニューロンレベルの脳生理学を学び、その後高名な言語学者チョムスキーのもとで言語学を修得するという経歴を持ち、現在では、30代の若さでありながら世界でも最高レベルの脳画像装置を自分の実験室に設置して、多数の研究業績を出している気鋭の研究者である。2002年の毎日出版文化賞を受賞した本書の内容は、自身の研究だけではなく、言語獲得から文法理論、手話や失語症、感受性期の問題まで広い範囲に及んでおり、一読すれば言語と脳の関係についての最新の情報を知ることができる。とはいっても、人間の心の働きのなかでもユニークかつ最も高等といわれている言語と脳の関係は極めて複雑で、簡単に解明できる問題ではない。本書からは、最近の研究で何が解明されたかではなく、人類最高の難題に科学がどのようにアプローチしているかを知ってほしいというのが推薦者の願いである。

■定行 まり子（住居学科助教授）

ドロレス・ハイデン著 後藤春彦・篠田裕見・佐藤俊郎訳 『場所の力』 学芸出版社 2002年
ハイデンは、1980年代にフェミニストデザインを歴史的に考察した『家事大革命』『アメリカンドリームの新構築』などで高い評価を得ているアメリカの住宅・建築・都市計画の専門家である。

本著の英文書名である The Power of Place は、ハイデンが1984年に設立した非営利組織の名称である。そこでは、歴史家、デザイナー、芸術家との協同プロジェクトにより、都市空間や公共の場所に、これまで忘れ去られていた女性の歴史や民族の歴史を位置づけるといった地道な活動が行われている。ハイデンは「場所の力」をその土地で共有された市民の社会的な記憶を育む力と捉え、場所は空間的意味合いとともに政治的意味合いを含んでいると述べている。

私たちが都市空間のデザインを考える上で、都市や地域の歴史を調査するオーラルヒストリーの重要性は一層増すと考えられ、本書はその理論と実践を学ぶ必読書である。

■坂田 仰（家政経済学科助教授）

ジョン・グリシャム著 白石朗訳 『評決のとき』上・下巻 新潮文庫 1993年

「アメリカでは、訴訟にならないものはない」といわれる。良くも悪くも、司法というものが、国民の日常の中に深く溶け込んでいるといえよう。しかし、司法が体現する「正義」とは何かと問うと、その答えは多様である。自由の国アメリカにおいては、正義を一義的に導き出す「正統思想」というものは存在しない。連邦最高裁判所は、合衆国憲法を星座に例え、何をもって「正しい」とするかの決定が一人ひとりの市民の手に委ねている点を指して、その不動の星だと判示している。

自分の子どもが犯罪の犠牲者となり、その犯人が司法制度の欠陥により罪を免れるかもしれない。そのとき、自分はどうすべきなのか。"A Time to Kill"という本書の原題は、その行方を暗示している。裁判に対する市民参加が模索され、犯罪被害者の怒りと悲しみがマスコミを賑わす今日、誤謬性を有する人間の限界と叡智を、法という視点から再考する意義は大きい。

■上川井 良太郎（数物科学科教授）

養老孟司著 『ガクモンの壁』 日本経済新聞社 2003年

本書は「日経サイエンス」に連載された対談記事をまとめたもので、題名はベストセラーになった「バカの壁」と似ているが、中身もスタイルもまったく異なっている。宇宙論、素粒子、DNAと並んで、自然科学分野での最近のトピックに脳科学がある。動物の脳は、ニューロンという細胞が複雑に絡み合った構造をしていて、各々のニューロンの働きはかなりわかっているが、それらが全体として、どう働いているかはわかっていなかった。しかし最近徐々にそのはたらきが解明されつつあるようである。たとえば「意識」はどうやって実現されているのか、犬や猫にも「意識」がありそうだが、みみずくに「意識」はあるのか。そもそも「意識」ということばで表そうとしているものの実体は何なのか。残念ながらこのような疑問に対する解答はまだ得られていないが、本書を読むことで関連する分野の研究の最前線に立つ科学者の知見や意見に触れることができる。

■田 辺 和 子 (日本文学科助教授)

ダニエル・ネトル, スザンヌ・ロメイン著 島村宣男訳 『消えゆく言語たち：失われることば
失われる世界』 新曜社 2001年

現在, 世界中には5000から6000の言語があるが, 少なくともその半数は, つぎの100年の間に死滅すると言われている。この本の著者は, 多くの言語がさらされている消滅の危機と, それに伴って文化が直面している脅威について, 世界各地の民族の状況を詳しく記述している。そして, 言語の危機を動植物の種の危機になぞらえ, 生態系の危機として訴えているのである。この本を読んで, 現代の「経済の波動」が人類の何千年もかけて培ってきた文化, すなわち生態系をいとも容易に破壊していく様を知ると, わたしたちが推し進めてきた「発展」の意義について, 懐疑的にならざるを得ない。「言語は, 学校で教えられるだけでは救えない。人の人生の歩みに, あらゆる機会に使用されることによって救われる。」というゴブハインのことばが引用されているが, 言語の復興には, わたしたちの精神の生き残りをかけて取り組まなくてはならないことを痛感させられた。

■尾 中 文 哉 (現代社会学科助教授)

スーザン・J・ネイピア著 神山京子訳 『現代日本のアニメ：「AKIRA」から「千と千尋の神隠し」まで』 中央公論新社 2002年

人間の身体はふつう空を飛べない。しかし, アニメの中では軽々と, しかもごくせんに飛んでみせる。宮崎アニメのヒロインは全てそうするわけであるが, この本を読んでではじめて, そのことのもつ社会的意味や, あるいは, 例えば『千と千尋の神隠し』の千がなぜ最後の部分でだけ空を飛ぶことができるのか, 納得できるだろう。アニメ評論というものは概して, 自分の解釈や思い入れをとうとうと述べ立てるものが多い。しかし本書は, ジェンダーや精神分析の理論, 他の研究者の解釈を整理・紹介しながら, その上に議論を展開しているので, 主張が明快かつ説得的である。著者の提示する「終末モード」「祝祭モード」「挽歌モード」という三つの区分も「目からウロコ」という感じである。それと同時に, 日本のアニメがアメリカ社会の中に, かなり以前から, しかもかなり捻れた仕方であり込んでいる, ということを感じさせてくれる点でも興味深い。

■北 西 憲 二 (社会福祉学科教授)

若林一美編 『亡き子へ：死別の悲しみを超えて綴るいのちへの証言』 岩波書店 2001年

現代は喪失とその悲しみ, 傷つきに強い関心を抱きつつある時代である。いつの時代も子供を亡くした親の悲しみは, 深くそして癒しがたいものがある。わたくしは精神科医という職業柄, 子供を亡くした親たちの話を聞いてきた。そしてまた私の研究のテーマの一つが喪失と生成のダイナミズムであり, それを調べている内に本書に出会った。編者自身が関わっている「ちいさな風の会」(子供を亡くした親の会)の文集のエッセイのなかから80余編を取録したものである。それぞれのエッセイは切なく, 重く, そしてそのままの気持ちを表現した文章は美しい。それとともに私は悲しみをそのまま書くことの作業の意味を考えた。書くことは喪失の事実の直面することである。それは苦しい作業だが, 自分がこの苦しみを背負って生きるためには避けることの出来ないものでもある。そのつらさを引き受けてさらに生きる親たちの気持ちが私たちの心を揺さぶるのである。

■塚 野 千 晶 (文化学科教授)

服部幸雄著 『江戸歌舞伎文化論』 平凡社 2003年

日本の代表的伝統芸能である歌舞伎は今年で生誕400年を迎える。歌舞伎座や平成中村座には, 若い女性ファンの姿が目立つこの頃ではある。しかし, 歌舞伎の本質を理解している若者の数は本当に多いのだろうか。短いながら本学でも教えられたことがある歌舞伎研究の第一人者の服部幸雄氏の最新の著書は, 日本の文化の一面を知るためにぜひ読んでほしい一冊である。これは著者が, 1973年から2001年までに発表された論文を集めたものであるから, 全部丹念に読めば, 歌舞伎に対する造詣を深められることはもちろんだが, 興味深い箇所を拾って読んででも面白い。歌舞伎の成立についての章に始まり, 江戸文化と歌舞伎のかかわりを相対的・多面的に論じておられる。序文で服部氏は歌舞伎と桜の花の関係を論じ, 華やいだ文で読者を魅了されるが, 言うまでもなく, この本は単なる随筆ではなく, その鋭い論法は学問の進め方を学ぶにも絶好の著書である。

e-Learning（学内者向け利用ガイド）

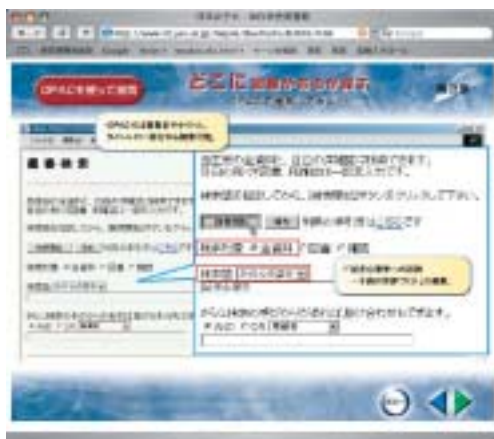
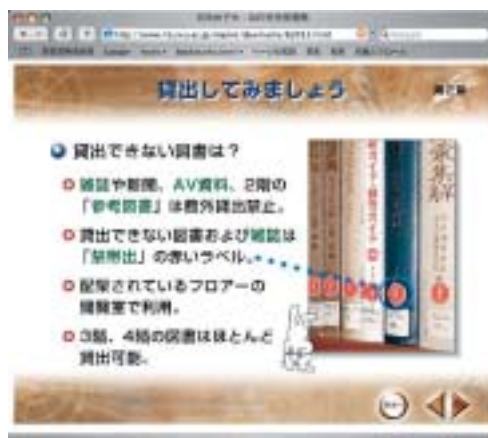
学生の皆さん、新入生オリエンテーションの時、図書館の利用案内を聞いた事を覚えていますか？ 目白では851教室でPowerPointのスライドを上映し、西生田ではスライドだけでなく、図書館ツアーもしたのですが、大学生活がまさに始まったばかりで、図書館を使いましょうと言われても、まだ実感が湧かなかったかもしれません。そしていざ図書館を利用しようとした時には、忘れてしまっていることもありますよね。そこで、ホームページ上にチュートリアル（個人学習）ができるよう、e-Learningのプログラムを置きました。通信生の方にはオリエンテーションの機会がありませんので、遠隔教育のひとつとして提供できればと思います。図書館ホームページ（<http://www.lib.jwu.ac.jp>）の、利用案内のアイコンを押してみてください。



このプログラムを見るためには、パソコンにFlash Player 6とShockwaveが必要ですが、研究室や自宅からでも見ることができます。（音がでますので、館内ではヘッドフォンをお貸ししますから申し出てください。）目白・西生田それぞれの図書館のバージョンが用意されていますが、基本的な機能やOPAC（蔵書検索）、利用規則などは同じです。全体が5章と最終テストからなっており、1章から順にみていくことも、必要な部分だけ開くことも可能です。

まずは1章から始めてみてください。図書館カードに描いてあるウサギの可愛いキャラクターのアニメがご案内します。2章の＜図書館の基礎知識＞は具体的な利用案内になっており、最後に○×テストが付いています。テストは、そこまでの内容を理解したか確かめるためにやるのもよいですし、単にクイズ感覚で楽しんでもらってもよいと思います。

3章の＜文献の達人的探し方＞は、OPACを使って実際に文献を検索する方法を、画面が動いて示します。その後には実習も用意されていますので、チャレンジしてみてください。正しく操作すれば次に進



めるようになっていきます。また、3章の後半は新入生オリエンテーションでは説明しきれなかった学外のデータベースを簡単に紹介しています。NACSIS Webcat や国立国会図書館の雑誌記事索引など、ゼミや卒論で資料を探すことに直面した時、これを知っているかといえないとではまったく違ってきます。図書館用語（緑の文字）をクリックすると、吹き出しにその説明が表示されます。

図書館の建物に来る前に4章の＜フロアガイド＞をみれば、どこに何があるか確認すること

ができます。目次をさして場所を選ぶ事もできますし、全館フロアマップから移動することもできます。図書館のバーチャルツアー（本の中身までは見られないのは残念ですが）を楽しんでみてください。

全体を通すと1時間近くかかることもあります。最後の5章<図書館のサービス100%使いこなそう>にも、是非おぼえておいていただきたいことがいくつか盛り込まれています。図書館は本を借りるだけのところではありません。こんなこと館員に聞くのは気がひけるけど…と思っている方、本学の所蔵だけでは足りない場合など、レファ



レンスサービスもしていますので、この章を読んでみてください。

<最終テスト>は全部で10問を、Yes, Noで答える、クイズ形式のテストです。ブッポー (×) となったら、その解説にとぶことができますので、理解に役立ててください。このページだけは進む方向の矢印は最後まで解かないと押せないようになっており、全部終わればエンディングへ進めます。

この e-Learning という企画は、大学図書館界で今さまざまな試みがされています。東京大学図書館のホームページでは、その大学のイメージと

はちょっと違った可愛いヒヨコとカップのキャラクターが図書館の利用法を教えてくださいますし、早稲田大学図書館では、画像を駆使しすっきりしたデザインの「図書館 NAVI」で館内が案内されています。海外でも「図書館に利用者呼び寄せるとは、図書館が利用者のところに向く」、リモートサービスの考え方がおこっています¹⁾。

本学図書館 e-Learning の内容は図書館利用案内のほんの入り口です。専門・主題にそった資料の探し方を説明する、授業やゼミ単位のガイダンスなども行っています。IT 教育でできることと、人と接しながらできないことがありますので、皆さんが身近に相談にこられるように、個々の質問も大切にしたいと思っています。

(本学図書館がこのようなプログラムを提供できるようになったのは、文学部田中功教授のご尽力によるもので、私たち図書館員だけでは人員削減等で日常業務におわれ、到底実現できるものではありませんでした。また、実装に関してはレコードマネージメントテクノロジー社によるものです。誌面をかりてお礼申し上げます。「情報管理」Vol.46 No.8 2003.11 に論文が掲載されます。)

1) Ferguson, C. " 'Shaking the conceptual foundations,' Too: integrating research and technology support for the next generation of information service." *College & Research Libraries*. 61(4) Jul.2000, p.300-11



(館員・参考係 高野真理子)

展示 アフガニスタン関係資料

本学では、2002年5月に結成された五女子大学（日本女子大学、お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学）の連合による一つの仕事として、アフガニスタン女子教育支援の活動が進められており、以後、学園内外では様々な関連の行事が展開されております。

いまから5年前のアフガニスタンでは、女子の教育は禁じられていました。兄弟と同じように勉強をしたい気持ちでいっぱい少女が、「髪を切り、男の子の服を着て変装し、進学した」との話が、この夏、新聞記事にも見られたばかりです。タリバーン政権崩壊後、2002年3月からは、国連児童基金（UNICEF）とアフガニスタン教育省の協力により、女子への教育が再開されることとなり、かの少女には、女の子として堂々と学校に行ける日が来たのでした。

支援活動という大きく意義ある目標に向かって、大学、附属校園の教職員のみならず、学生のみなさまの若々しい理解と協力も必要と思われまます。地道な活動の輪を広げていきたいものです。

このように全学的な機運の中で、図書館は、アフガニスタン関係資料の展示を旨とし、西生田の両図書館において同時期に開始し、関連分野の本の紹介を試みました。旨は、正面玄関ホールにて、2003年6月16日から10月14日まで、すでに終了しました。西生田は、2003年6月1日より、新刊展示棚にて、随時継続展示中で、来春、年度末までの予定です。難解な国際問題を繙く一助になれば幸いです。



目白図書館玄関ホール展示



西生田図書館新刊展示棚

展示では写真集に人気が集まったようです。こどもたちの目の深さに引き付けられた方が多かったのではないのでしょうか。展示が終了した資料やその他関係資料が図書館の書架に並べられています。OPAC 検索や請求記号をたよりに図書館の書架を歩いてみてください。支援とは、ボランティアとは何か、アフガニスタンのみならず様々な国の歴史、美術、現状などの資料を手にとることができるでしょう。また、上代タノ平和文庫（目白図書館5階）にも立ち寄ってみてください。

第六代学長上代タノ先生寄贈図書により1971年に創設されたこの文庫は「女性が、国際平和についての問題意識を明確に持ち、平和への推進力となることを念願し」て選ばれた図書が備えられています。開室日、開室時間を確認のうえ、ぜひご利用ください。（禁帯出以外は貸出可。OPAC 検索結果は<上代平和文庫>と表示。西生田図書館へ取り寄せ可。）



丸山直樹著『アフガン乾いた大地』日本放送出版協会 2002 p.12-13

アフガニスタン関係 展示資料一覧 (目白・西生田図書館) 請求記号順

タイトル	著者名等	出版社	出版年等	配架先 ※①	請求記号
< 図書 >					
子どもたちのアフガニスタン (岩波ブックレット)	長倉洋海	岩波書店	2002年	目 西	081.6/Iwa/559
アフガン25年戦争	遠藤義雄	平凡社	2002年	目 西	226.2/End
アフガニスタンの歴史	マティウ・アガ	明石書店	2002年	目 西	226.2/Ewa
アフガニスタン	樋口隆康	日本放送出版協会	2003年	目 西	226.2/Hie
アフガニスタン史	前田耕作, 山根聡	河出書房新社	2002年	目 西	226.2/Mae
アフガニスタンの仏教遺跡バーミヤン	前田耕作	晶文社	2002年	目 西	226.2/Mae
戦士たちの貌 -アフガニスタン断章-	南条直子	径書房	1988年	目	226.2/Nan
アフガニスタン: 戦乱の現代史	渡辺光一	岩波書店	2003年	目 西	226.2/Wat
国際結婚イスラームの花嫁	泉久恵	海象社	2000年	目 西	289.2/Izu
若き獅子マースド: アフガン1983-1988	長倉洋海	河出書房新社	1989年	目	289.3/Mas
美術紀行シルク・ロード	永井信一	東出版	1981年	目	292.09/Nag
ワタネ・マン: わたしの国アフガニスタン	長倉洋海	偕成社	2002年	目 西	292.62/Nag
獅子よ眠れ: アフガニスタン1980-2002	長倉洋海	河出書房新社	2002年	目 西	O.S./292.62/Nag
アフガニスタン1000の瞳	高原イラスト館/ハケ岳	西田書店	2003年	目 西	302.262/Afu
アフガニスタンの仏像は破壊されたのではない 恥辱のあまり崩れ落ちたのだ	モフセン・マフマルバフ	現代企画社	2001年	目 西	302.262/Mak
アフガン乾いた大地: 戦火の中の民	丸山直樹	日本放送出版協会	2002年	目 西	302.262/Mar
アフガニスタン敗れざる魂	長倉洋海	新潮社	2002年	目 西	302.262/Nag
アフガニスタンの悲劇	佐藤和孝	角川書店	2001年	目	302.262/Sat
中村哲さん講演録: 平和の井戸を掘る	ピースウォーク京都	ピー・フォー・京都	2002年	上代	302.262/Nak
アフガニスタン: 写真集	クリス・ステイブ・キス	晶文社	2001年	目 西	O.S./302.262/Ste
イスラーム世界がよくわかるQ&A100	山岸智子, 飯塚正人	亜紀書房	1998年	目 西	302.28/Isu
イスラームとは何か: 「世界史」の視点から	板垣雄三	藤原書店	2002年	目 西	302.28/Isu
イスラームの思考回路	竹下政孝	栄光教育文化研究所	1995年	目 西	302.28/Koz/4
イスラーム過激原理主義: なぜテロに走るのか	藤原和彦	中央公論新社	2001年	目 西	312.26/Fuj
アフガニスタン: 国連と平和活動と地域紛争	川端清隆	みすず書房	2002年	目 西	312.262/Kaw
イスラームでニュースを読む	宮田律	自由国民社	2000年	目 西	312.27/Miy
イスラームと民主主義	ジョン・エズ・イト・ジョン・ボム	成文堂	2000年	目 西	312.28/Esp
テロリズム	東海大学平和戦略国際研究所	東海大学出版会	1998年	目	316.4/Ter
テロリズム (増補版)	東海大学平和戦略国際研究所	東海大学出版会	2001年	目 西	316.4/Ter
アフガン戦争の真実: ミソ冷戦下の小国の悲劇	金成浩	日本放送出版協会	2002年	目 西	319.26/Kim
「対テロ戦争」とイスラーム世界	板垣雄三	岩波書店	2002年	目 西	319.26/Tai
イスラームと国際政治: 歴史から読む	山内昌之	岩波書店	1998年	目 西	319.26/Yam
アフガニスタン: 南西アジア情勢を読み解く	広瀬崇子, 堀本武功	明石書店	2002年	目 西	319.262/Afu
イスラーム紛争の深層	宮田律	時事通信社	1998年	目 上代 西	319.29/Miy
ブルカ沈黙の叫び	アナ・トルタハーダ	集英社	2002年	目 西	367.2262/Tor
イスラームにおける女性とジェンダー	ライフ・アハド	法政大学出版局	2000年	目 西	367.228/Ahm
ポランティア学のすすめ	内海成治	昭和堂	2001年	目 西	369/Bor
ポランティア学を学ぶ人のために	内海成治, 入江幸男, ほか	世界思想社	1999年	目 西	369/Bor
この子たちのアフガン	川崎けい子	オ・ワ自由7/1	2001年	目	369.38/Kaw
ダラエ・ヌールへの道-77ガソリ難民とともに-	中村哲	石風社	1993年	目 西	369.38/Nak
国際教育協力論	内海成治	世界思想社	2001年	目 西	370/Uts
イスラーム的: 世界化時代の中で	大塚和夫	日本放送出版協会	2000年	目 西	389.28/Ots
「哀しみの国」にすべてを捧げて	カルラ・シェフター	主婦と生活社	2002年	上代	498.02/Soh
アフガニスタンの診療所から	中村哲	筑摩書房	1993年	目	498.02262/Nak
ほんとうのアフガニスタン	中村哲	光文社	2002年	目 西	498.02262/Nak
医者井戸を掘る: アフガン早魃との闘い	中村哲	石風社	2001年	目 西	498.02262/Nak
バーミヤン遺跡: 写真集	前田耕作, 越前隆, ほか	毎日新聞社	2002年	目	O.S./702.26/Mae
バーミヤン、遥かなり	宮治昭	日本放送出版協会	2002年	目 西	702.26/Miy
アフガニスタンの美	谷岡清	小学館	1997年	目	702.26/Tan
トットちゃんとおアフガニスタンの子どもたち	田沼武能	岩崎書店	2002年	目	748/Tan
アフガニスタンの風	ドリス・レックガ	晶文社	1988年	目	935/Les
アフガニスタンの風 (新装版)	ドリス・レックガ	晶文社	2001年	上代 西	935/Les
女子大通信 2003年1月号・6月号	日本女子大学通信教育事務局			目 西	P/377.05/J
< 映像 > ※②					
サイクリスト (DVD)	モフセン・マフマルバフ監督		[2002]年	目 西	VD
カンダハール (DVD)	モフセン・マフマルバフ監督		[2002]年	目 西	VD
よみがえりカレズ (ビデオ)	土本典昭ほか監督		[1989]年	目 西	VT

※①上代…上代タノ平和文庫(目白図書館5階) ※②AVコーナーでご覧ください。館外貸出不可。

平成15年度夏期スクーリング開館について

中澤啓子

今年も図書館は7月28日(月)から8月23日(土)まで夏期スクーリング開館をいたしました。今年のスクーリングは昨年より受講者数も少なく、期間も6日短い24日間でした。しかし、図書館内の雰囲気は例年と同じく、活気にあふれていました。

特にスクーリング生の参考係の利用が、昨年より増加しました。スクーリング生の質問内容は自分の住んでいる地元の大学図書館の蔵書を利用したいというものが多かったようです。しかし、他大学図書館の利用については相手側の受入態勢の問題もあるので、相手館の意向を確認する必要があります。参考係としては本人の希望を聞きつつそのように利用について説明をし、案内するようにしたということです。なかなか、本学図書館に来ることができない地方の通信生にとって、いかに学習用の専門書を手にするのが難しいかが察せられました。

図書館では、そのような状況を踏まえ、通信教育部のレポート課題集に載っている参考書をそろえるよう心がけていますが、なかには古くて購入できない資料もありました。また最新の資料を案内しても、レポート課題集に載っている刊行年のものに固執する方もおり、レポート課題集の参考書は通信生の学習に大きく影響を与えています。図書館から通信教育事務部を通して、担当の先生方に参考書の見直しをお願いいたしました。また、スクーリングの授業で先生方から紹介された資料は利用が集中するので、資料が効率よく利用されるように、事前に指定図書の手続きをとることを希望します。通信生がより充実した学習を、よりスムーズにできるよう図書館では協力していきたいと思っております。

図書館は昨年5月より入館システムを導入し、図書の貸出時にだけでなく、入館時にも図書館利用カードが必要になりました。スクーリング生も館員もはじめてだった昨年に比べ、今年はスムーズに利用カードの発行ができたのではないのでしょうか。入館のたびに、利用カードを出し入れするのは慣れるまで手間かとは思いますが、今後ともご協力をお願いします。

(館員・閲覧係)

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	15	14	13
開館日数	24	30	31
入館者数	10,280	13,502	15,490
1日平均	429	451	500
最高	565	919	616
最低	277	325	328
受講者数	2,227	2,370	2,622
登録者数	1,098	1,181	965
1日平均	46	40	32
貸出冊数	4,137	4,762	4,999
1人当たり	4	4	5
1日平均	173	159	162
最高	277	286	256
最低	105	61	85
貸出日数	24	30	31
複写枚数	33,523	56,931	77,017
1日平均	1,397	1,898	2,485
一般学生・教職員 その他の貸出	1,979	2,373	2,560
1日平均	83	79	83

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	15 (20)	14 (20)	13 (19)
一般学生・教職員	84	95	107
スクーリング生・その他	97	49	64
合計	181	144	171
1日平均	9.1	7.2	9

編集後記 田中功先生他の方々の協力を得て、ホームページで日本女子大学図書館のe-Learning(学内者向け利用ガイド)がスタートしています。最終テストも挑戦してみてくださいね。巻頭の秋明菊は、目白の逐次刊行物係で、雑誌のデータ入力などに精励されている川島恭子さんが描いてくださいました。

平成15年度図書館だより編集委員: 田口令子, 中島和子, 吉原三紀子, 田代陽子, 山村いづみ (田口)